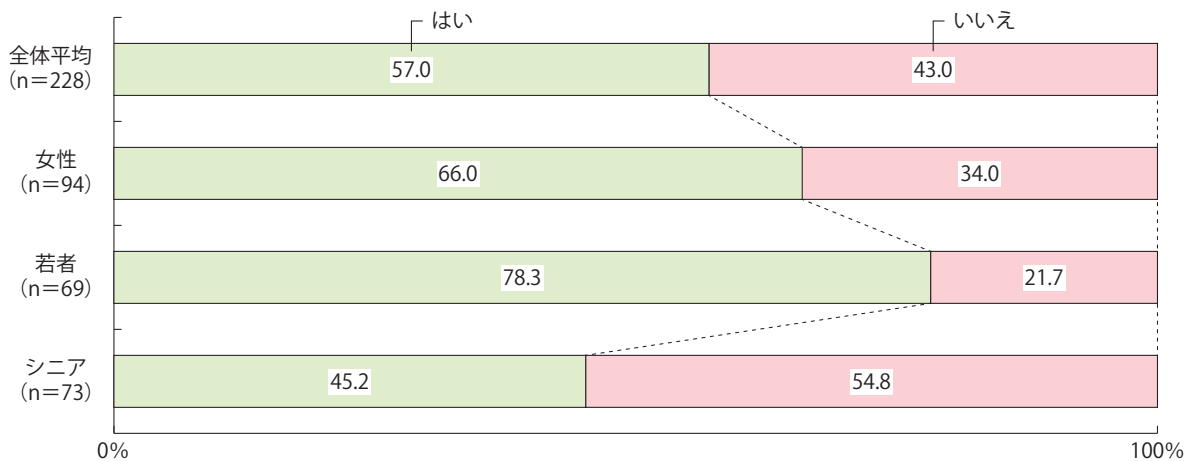


第3-2-30図 起業家が起業を断念しそうになった際の相談相手の有無



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）  
 (注) 起業家のうち、断念しそうになった経験がある回答者について集計している。

それでは、起業の準備段階にある者が起業を断念しそうになった際の相談相手として、どのような者を選んでいるのだろうか（第3-2-31図）。結果としては、「家族・親戚」、「知人・友人」を挙げる割合が高い。女性、若者、シニアにおける特徴としては、女性では「起業仲間や既に起業した先輩起業家」を挙げる割合が比較的高く、起業家や起業準備者が互いに交流するような仕組みが求められているといえよう。若者は、「起業のパー

トナー（共同経営者）」を選択する割合が比較的に高くなっている。これは、若者は起業をする際に一人ではなく、共同経営の形で起業する傾向があるためと推察される。シニアについては、「家族・親戚」を挙げる割合が最も高いが、一方で、「税理士、会計士」、「経営コンサルタント」、「商工会・商工会議所」といった支援機関を利用する割合が女性や若者に比べて高いことが特徴といえよう。